

経験を重ねて、長く、楽しく働きたい

法律事務所職員

本多 陽子

法律事務所で働き始めて4年半になる。あっという間にもう「新人」とは呼べない年数になってしまったが、まだわからないことも多く、日々先輩方に教えてもらいながら仕事をしている。

**新しい仕事を覚えるのは
おもしろく、楽しい**

入所一日目、弁護士一人一人に挨拶をして事務局スペースに戻る。当然仕事はまだなく、「どんな雰囲気なのか見てるといいよ」と先輩に言われ座っていたが、電話が鳴っているのが気になる。以前外食産業で働いていた私は、「電話は3コール以内で取る」が体に染みついているため、電話のコール数を数えてしまう。でも先輩たちは忙しそう、私は暇。「電話取っていいですか?」と聞き、電話に出た。とたんに聞いたこともない単語が聞こえてくる。事件番号すら最初はわからなかった。今になって思えば、きちんと教えてもらってから電話に出れば良かったと思うが、そのときは初めての言葉がおもしろく、楽しかった。書証作成等の仕事も教えてもらい、外回りにも行くようになった。その都度仕事が楽しくなった。

事件の内容にも関心を持つようになった。すると、人の人生の節目に立ち会っているような気がしてきた。日本ではまだまだ弁護士は敷居が高いと思われているので、法律事務所に来るということはよほどのトラブルを抱えているということだ。内容を知ると、電話や来訪されたときに対応する自分の心持ちも違ってくる。

**依頼者の話を
電話で聞くだけだが…**

今私が関わっている仕事の中で一番多いのは債務整理である。一人一人異なる事情があり、苦労があるが、最後にどうしようもなくなって法律事務所に来るのは皆同じだ。

よく覚えているのは、以前担当した人で、精神的に不安定になっていた人のことだ。毎週のように電話が入るが、内容はというと、ほとんどない。私は電話口で、「大丈夫ですよ、もうすぐ手続きも終わって、新しく出発できますよ」と言うだけである。正直、忙しくしているときは、弱ったなと思ったこともあった。しかし整理が終わり、最後にお礼の電話をもらったとき、声がとても穏やかになっていることに驚いた。「あなたが電話で話を聞いてくれたから、ここ数ヶ月やってこられました」と言われたときはもちろん嬉しかったが、申し訳ない気持ちの方が大きかった。実際の仕事はほとんど弁護士がやっていたし、私はいつも親切で丁寧に対応していたとは言えなかった。

**できることは少ないが、
一生懸命しようと思う**

法律事務所の依頼者には様々な人がいるが、できる限りその人が抱えているトラブルを親身になって考えられるようになりたい。解決のために私ができることは少ないが、できることは一生懸命しようと思う。法律事務所の仕事は人の人生に大きく関わる、非常にやりがいのある仕事だ。一年一年経験を積み重ね、長く、楽しく働きたい。